

# 「書くこと」領域における授業実践例

① 学年・単元名 第6学年「表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう」

② 単元のねらい

「リーフレットを作るために引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書く力」

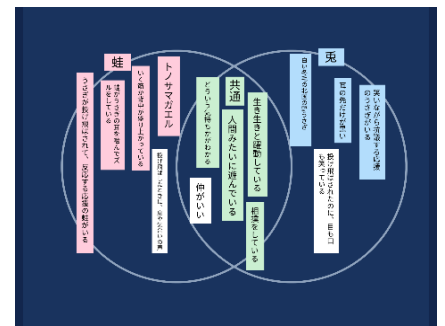
③ 指導の工夫

言語活動にリーフレット作りを設定しました。図表と自分の考えを結び付けて書くことで説得力のある文章を書く力をつけることが出来るようにした。そのために、「鳥獣戯画」の挿絵や巻物を筆者の高畑勲さんが伝えたいことと照らし合わせることで考えをつくっていることに気付けるようにした。

④ 活用したツール タブレット端末 (iPad) Pages とクラウド型授業支援アプリ ロイロノート

⑤ 実践内容

・ロイロノートを活用し、その中でベン図を活用しながら兎と蛙について書かれている叙述に着目し、そこから考えた事をまとめる活動を行った。兎と蛙のテキストの色を変えてまとめることで視覚的に分かるようにした。そして、その考えをもとに対話を行った。対話を行う際、ロイロノートに全員が自分の考えを提出し、仲間の考えを自分のタブレット端末で見られるようにした。そして、自分が聞きたい考えを見付け、その子と対話を行えるようにした。対話をして新たに得られた考えは、別の色のテキストで書き、対話によって考えが深まったり、広がったりしたことが分かるようにした。このように進めることで、あまり考えを書くことができなかった児童も仲間からの考えを得ることによって、充実した対話を行うことができた。



・「鳥獣戯画を読む」で学習した絵と文章を照らし合わせ、自分の考えを書くことを「日本文化を発信しよう」というテーマで、タブレット端末の Pages を活用してリーフレットを作成していく。テーマにあった写真やその説明などをインターネットから検索し、引用するようにした。その際、構成で作成した自分の考え（評価）を必ず入れるようにして、事実と考えを区別して書くことができるようにした。自分の書きたい内容に合った写真などを選び、文章と合わせることで伝わりやすいリーフレット作成ができるようにした。ある児童は、銀閣寺が釘を使わずに建てられたこと、日本の建造物のつくりのすばらしさを伝えたいと考え、銀閣寺の外観の写真ではなく、内装の写真を活用していた。写真を活用することで文章に書いたことを引き立てることができていた。



## ⑤成果と課題（実践するときの留意点など）

○タブレット端末を活用したことで、学級全員の考えを共有でき、どの子も仲間の考えから自分の考えを深めたり、広げたりすることができた。

○リーフレット作りを Pages で活用することで、構成や推敲に対する児童の負担感が減り、試行錯誤しながら作成することに有効であった。

△インターネットから検索していくと信憑性に欠ける点もあり、選び出し方を明確にしていく必要がある。